

水田たより 3月号

令和4年3月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦の生育状況

■ 気象概況

1月下旬以降の気象について、降水量は少なく、日照も平年より1割ほど多くなっています。気温について、2月中旬以降やや低く推移していますがおおむね平年並みとなりました。

11/1~2/24の概況

◇積算気温

850℃

(平年比 98%)

◇積算降水量

233 mm

(平年比 102%)

◇積算日照時間

678 時間

(平年比 112%)

■ 向こう1か月の気象(名古屋地方気象台1か月予報、R4.2.24発表)

気温	降水量	日照時間
平年並みか高い	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み

■ 現在の生育状況(2月25日 生育基準田調査より)

小麦・大麦ともに、2月にはいり分けつが増えてきています。今後はほぼ平年並みか高い気温が予測されるため、生育は順調に進むと考えられます。

■ 分施の場合、3月の穂肥が仕上げ作業になります。下記を参考に追肥してください。

種類	内容	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦・大麦	2回目の追肥	3月中旬 (止葉抽出始期)	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

※大麦は、施用量が多かったり、時期が遅かったりすると、硝子粒の増加につながります。
生育状況を確認しながら、適期に適量を施用するようにしましょう。

赤かび病の薬剤耐性菌について

同一系統の薬剤の連用により薬剤耐性菌の出現が懸念されることから、県農業研究所では採取した赤かび菌のチオファネートメチル剤(トップジンM)に対する感受性を継続調査しています。令和3年産小麦の調査結果で、他系統の薬剤での防除が必要な「高度耐性菌」が確認されました(右表)。

県内調査 圃場数	菌株数			耐性菌の 割合(%)
	分離数	高度耐性菌※	中度耐性菌※	
95	175	1	4	2.9

※チオファネートメチル剤(トップジンM)に対する耐性を調査

コムギ赤かび菌採取菌株数

(三重県農業研究所、2021年)

管内での高度耐性菌の発生は認められませんが、いずれ発生する可能性は十分にあります。以下のことを常に意識し、地域のみんなで薬剤耐性菌対策に取り組みましょう。

同一系統の薬剤を連用しない

- 2回目防除をおこなう場合などは同一系統の薬剤を連用しない。

例) トップジンM

⇒ワークアップ

適期に防除する

- 開花期(出穂期から7日~10日後)の防除は効果が高い。

農薬の使用方法を守る

- 本来の使用方法外の低濃度散布などは耐性菌を発生させる原因となる。

獣害対策

■防護柵のメンテナンス

防護柵は、効果が十分発揮されるよう定期的なメンテナンスや修繕が必要です。以下のチェックポイントを参考にしてください。

(1) 電気柵の確認・修繕 (1年中、電圧は4000ボルト以上を確保。使用しない時は撤去。)

① 本体の確認 (故障かな?)



本機にセットされているワイヤーをはずし、テスターで電圧を点検して下さい。

② アースの確認



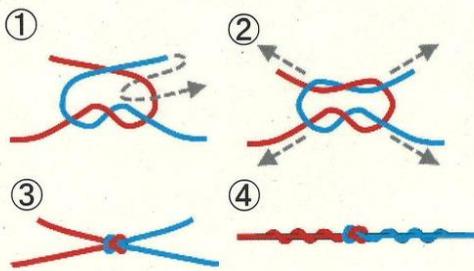
アース棒が全て埋まっていますか?

③ 柵線や支柱、碍子の確認



柵線が雑草や鉄、碍子のネジ部に接触していませんか?

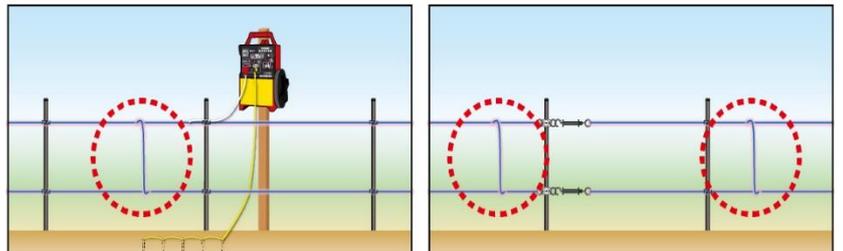
金属製の支柱のゴムやプラスチックが劣化すると漏電します。



柵線の結び方
(本結び+巻き付け)

ポイント 1 本器の近くには必ず1箇所結線が必要です。

ポイント 2 出入口は左右2箇所に結線をしましょう。



正確に衝撃電流が流れるように3ヶ所は結線を設けましょう。

写真は鳥獣被害対策.com様、二本松市有害鳥獣対策協議会様、(株)末松電子製作所様のHPより引用

(2) ワイヤメッシュ柵の補修・補強



下部にパイプで補強



溶接が外れた所を
針金でタスキ掛け補強



トタンや防草シートで
目隠して侵入意欲減退